

## 令和7年度 地域福祉活動計画推進委員会 要点録

日時 令和7年4月21日（月）午前10時から  
場所 高槻市ボランティア・市民活動センター活動室  
出席 別紙参照

### 1 開 会

### 2 案 件

- (1) 第4次地域福祉活動計画について
  - ・第4次地域福祉活動計画の説明  
(参照：第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画冊子)
- (2) 第4次地域福祉活動計画の進行管理について
  - ・計画の進行管理表により説明（参照：進行管理表）

## 【主な論点と質疑応答】

### 1. CSW 新規相談件数の増加要因について

(基本目標 1-方針 2-取組② コミュニティソーシャルワーカーによる相談支援体制の拡充)

- 委員: 新規相談件数が約 40%増加している要因は何か?
- 事務局: 貸付事業のフォローアップ対象者(生活課題を抱える方)からの相談が増加しているため。

### 2. 貸付償還猶予者への郵送回答減少について

(基本目標 1-方針 2-取組① 生活困窮者に対する支援)

- 委員: 郵送後の回答数が激減している要因は何か?
- 事務局:
  - 償還意思を持つ人が少ない可能性を示唆している。
  - 特にコロナ禍の特例貸付は条件が緩やかだったため、償還への責任感が低い人が見受けられる。
  - 償還困難者の生活課題支援も行っているが、引き続き課題がある。

### 3. 地域福祉計画・活動企画の数値目標について

- 委員: なぜ数値目標が設定されていないのか?経緯を知りたい。
- 事務局:
  - 市との議論の結果、計画内容が数値化しにくいものが多いため、目標を「あるべき姿(概念目標)」とした。
  - 推進委員会の進捗報告では、一部実績値を数値化して推移を確認できるようにしている。
- 委員長(計画策定時関与):
  - 数値目標化には「既存事業の実施回数のみになりがち」「抽象的すぎても分かりづらい」といった議論があった。
  - 結果、「方針が達成された場合の姿(イメージ)」で目標を示すことになった。計画終了後に、地域がそのイメージにどれだけ近づいたかを確認することが意図されている。

### 4. 第4次地域福祉活動計画の議事録公開について

- 委員: ホームページに議事録が掲載されていない。情報共有が必要ではないか。
- 事務局: 未掲載を認め、委員会終了後にこれまでの議事録をまとめて掲載する予定。

### 5. Ayamu と地域診断ワーキングについて

(基本目標 1-方針 2-取組③ 地域包括ケアシステム構築に向けての連携)

- 委員:
  - 「Ayamu」とはどのようなツールか?
  - 「地域診断ワーキング」でどのような課題が解決されたのか?

- 事務局:
  - 「Ayamu」は、地域の社会資源（公民館の活動、NPO の通いの場、ボランティアサービス等）をリストや地図上で確認できるインターネット上の情報共有ツール。
  - 「地域診断ワーキング」では、Ayamu を活用し、市・地域包括支援センター・社協が連携して、社会資源の不足地域、地域のキーパーソンなどを分析する地域診断を行っている。
  - 昨年度から開始し、地域ごとの課題解決（担い手拡充イベントの実施等）を進めている。

## 6. 多機関協働ネットワークについて

（基本目標 1-方針 2-取組② 多機関協働ネットワークの推進）

- 委員:
  - 地縁型組織とテーマ型団体の連携が不十分。両者がつながるネットワーク構築が必要。
  - タウンスペース WAKWAK の「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」（約 80 団体加盟）と社協が連携し、一歩踏み込んだ取組を実施すべき。
- 事務局:
  - （基本目標 2-方針 1-取組② 身近な地域での井戸端会議等の開催）ぷららば事業において、地縁型組織とテーマ型組織が緩やかにつながり、自然と協働が生まれる交流の場づくりに取り組んでいる。今後、各地区単位で実施できるような展開も考えている。
  - WAKWAK からの協力提案はありがたい。連携について検討したい。

## 7. 日常生活自立支援事業について

（基本目標 1-方針 3-取組② 日常生活自立支援事業の充実）

- 委員:
  - 成年後見制度に繋がらない多重債務者等への金銭管理サポートが必要と感じる。
  - 契約までに半年かかると言われたが、手続きの問題か、マンパワー不足か？
- 事務局:
  - 本事業は本人の意思決定支援を重視するため、丁寧な意思確認と信頼関係構築に時間をかけていることが、契約期間に影響する主な要因。
  - マンパワーに問題はなく、待機者もない。大阪府社協の調査も受け、適切に事業を実施している。
- 委員:
  - 福祉現場では本事業を必要とする人が多い。契約まで半年は長く、状況が逼迫する世帯もある。期間短縮はできないか。
  - 現場には「社協に頼んでも難しい」と諦めている人もいる。事業活用を促す

PR・周知に注力してほしい。

- 事務局:
  - 状況によっては優先契約で期間短縮することもあるが、信頼関係構築が鍵であり、周囲（他の支援者等）の協力も重要。
  - 事業周知の必要性は認識している。

## 8. 食品預託払出事業のメーリングリストについて

（基本目標1-方針2-取組② 多機関協働ネットワークの推進）

- 委員: メーリングリスト登録者が少ないのでは？地域の横の繋がりも不十分。拡充に注力すべき。
- 事務局:
  - 社協が関わりのある団体（主に子どもの居場所づくり団体）から徐々に広げているが、少ないと認識しており、増やしていきたい。
- 委員: WAKWAK ネットワーク（約80団体）への声掛けも可能。相互連携を図りたい。
- 事務局: 声掛けはありがたい。連携を検討したい。

## 9. その他

- 委員:
  - 数値目標について、見える化できるものは可能な範囲で数値化してほしい（例：福祉のまちかど相談未実施地区など）。
  - 「らいむらいと」のホームページ準備を進めてほしい。

### 【基本目標2に関する意見】

#### 1. 高齢者の見守り活動について

（基本目標2-方針1-取組① 高齢者地域支えあい事業の充実）

- 委員からの意見:
  - ひとり暮らし高齢者の見守り活動における民生委員児童委員と地区福祉委員会の役割分担について、高槻市ではどのようになっているか。
  - 個人情報の管理・共有方法について、どのように行っているか。
- 事務局からの回答:
  - 連携の仕方は地区によって異なる。民生委員児童委員と地区福祉委員会が手分けして見守り活動をしているところもあれば、見守りは民生委員児童委員、サロン活動は地区福祉委員会が行っているところもある。
  - 個人情報の管理・共有方法は地区によって多少異なり、本人の了承の上で共有しているところもあれば、共有していないところもある。

#### 2. ハイフン事業および類似の参加支援事業

（基本目標2-方針2-取組① さまざまな地域のニーズに対応した交流の場づくり）

- 委員からの意見:

- ハイフンの取り組みは地域福祉会館のみになるのか。他の拠点（福祉施設など）で実施することはないか。
- 事務局からの回答：
  - ハイフンという名称の事業では、地域福祉会館のみになるが、社会から孤立した人への支援を行う参加支援事業では、ハイフンの趣旨に近い形で、社会参加が難しい人が参加しやすいような取り組みを市内すこやかテラスやお寺の空きスペースなどを活用して行っている。拠点について、場所の提供をいただける施設があれば、ぜひ利用させていただきたい。

### 3. ICT ツール【ジョイリンクス】の活用

（基本目標 2-方針 3-取組② 災害ボランティアセンター設置・運営シミュレーションの実施）

- 委員からの意見：
  - 災害ボランティアセンターの運営における、ICT ツール【ジョイリンクス】の活用について、どのように考えているか。
- 事務局からの回答：
  - ランニングコストがかかるということもあるが、有効に使えるかどうかの検討も必要。参加者の反応はよかったが、組織内で検討を重ねたい点もある。

### 【基本目標 3 に関する意見】

#### 4. 高齢者のデジタル活用支援（スマホ勉強会）

（基本目標 3-方針 1-取組① 地域福祉活動を支える人材づくり）

- 委員からの意見：
  - 高齢者はデジタル利活用の面で情報弱者になりやすいので、スマホ勉強会の取組は必要であると考え。開催時に毎回定員に達しているとのことだったが、延べ人数は何人になるか。
    - ➡令和 6 年度 8 月～3 月の実施で、延べ人数は 51 人。
- 委員長からの質問：
  - 1 回あたり何人参加するか。
- 委員からの意見：
  - 参加者の横に講師がついて、スマホを教えていただくので、現状の少人数制がよいと考える。この取り組みは必要性が高いので継続してほしい。もっと回数を増やしてほしい。
- 事務局からの回答：
  - 現時点で延べ人数が分からないため要点録に入れて回答をする。
  - スマホ勉強会では毎回 8 名を定員としている。
  - 高槻阪急スクエア 6 階の暮らしの総合相談センターで実施している総合相談事業でもボランティアグループの協力を得て、令和 7 年度から毎週火曜日に個別相談会を実施することになった。
  - すこやかテラスでも通年で講座を行っており、年間で延べ 1200 名の方に

参加してもらっている。それでもなお、ニーズがあるため継続していきたい。

## 5. ボランティア活動支援と市社協の連携

(基本目標3-方針1-取組③ ボランティアの活動支援)

- 委員からの意見:
  - 4月からコミュニティスクールを開始し、学校ボランティアを各中学校で募集するという動きになっているが、市社協と連携はあるのか。地域にない資源をどうするかという議論も生まれているので社協の支援を得られるのか。
- 事務局からの回答:
  - コミュニティスクールは中学校区単位となっており、市社協が構成員として入ることはないのが現状。もちろん、協力はしていきたい。

## 6. 社協の情報発信について

- 委員からの意見:
  - 社協だよりもカラーになって分かりやすくなっている。
- 事務局からの回答:
  - ありがとうございます。
- 委員からの意見:
  - 社協の事業をもっと身近な地域で知ってもらうこともしてほしい。また、若い世代へのアプローチも必要であると考えている。例えば大学や子どもの親世代の人に関心をもってもらえるような取組も必要であると考えてるので、そのあたりも検討してほしい。
- 事務局からの回答:
  - ありがとうございます。検討いたします。